

「第1回 通学安全検討部会」 の内容について

京北地域小中一貫教育校検討協議会

1 日時・場所

平成28年11月21日(月)20:40~21:35

京北合同庁舎 大会議室

2 出席者

- ・通学安全検討部会 ...資料1
- ・京都市教育委員会調査課・学校統合推進室, 都市計画局歩くまち京都推進室

3 基本的な考え方

- ・学校統合により, 遠距離通学となる児童について, 教育活動に支障のないよう, 公費負担により登下校に必要なバスを確保する。
- ・京北地域小中一貫教育校の子どもたちの通学に関して, 本部会で検討を進める。
- ・通学方法の検討は, 32年度の開校を見据えた場合, 準備期間を考慮し, 29年度中に方針を決定したい。

4 説明概要

- ・京北地域における通学の現状...資料2
- ・京北地域の公共交通の現状, 取組み, 課題...資料3
- ・バス通学において走行する経路の提案...資料4

資料1 京北地域小中一貫教育校検討協議会学安全検討部会名簿<21名:敬称略>

6自治会代表	勝山 正昭	周山自治会長
	岡本 義博	宇津自治会長
	高乗 政廣	弓削自治会長
	辻 実智之	細野自治会長
	林 寛	山国自治会長
	三間 恭二	黒田自治会長
PTA代表	人見真一郎	27年度京北第一小学校PTA会長
	西川 聡子	28年度京北第一小学校PTA会長
	樋口 泰弘	27年度京北第二小学校PTA会長
	江後 大介	28年度京北第二小学校PTA会長
	中道 知圭	27年度京北第三小学校PTA会長
	宮下 稔	28年度京北第三小学校PTA会長
	田中 正則	27年度周山中学校PTA会長
	山本 春人	28年度周山中学校PTA会長
保育所代表	森 知子	28年度周山保育所保護者会長
	小谷口さくら	28年度ひかり保育所保護者会長
	坂森 亜希子	28年度弓削保育所保護者会長
学校長	藤田 弘明	京北第一小学校長
	佐々木 猛	京北第二小学校長
	田村 淳	京北第三小学校長
	新井 保	周山中学校長

資料2**京北地域における通学の現状****(1)スクールバスの運行**

No.	対象校	対象地区	距離 時間	利用 人数	乗車 定員	車両	備考
1	京北 第一小	矢代線(矢代・宇野地区)	約11km 約25分	7人	15人	バス	住民利用可
2		細野線(細野長野地区)	約10km 約20分	5人	29人	バス	住民利用可
3		細野線(細野余野地区)	約8km 約20分	11人	29人	バス	住民利用可
4		宇津線(宇津地区)	約15km 約30分	21人	29人	バス	
5	京北 第二小	山国黒田線(黒田地区)	約12km 約20分	7人	26人	バス	
臨時	京北 第三小	田貫線(田貫地区)	約6km 約10分	1人	10人	ワゴン1台 を適宜利用	短縮授業日 の下校時の み(年間20 回程度)
	小3校 中1校	通学以外の学校教育活動 (校外活動・中学校部活動 等)の移動		(随時)			

(2) 遠距離通学の児童生徒

京北町時代に定められた地域について、バス通学を認めている。

なお、バスは8路線あり、スクールバスの利用も含めた人数は下表のとおり

(28年度乗車人数)

校名	路線名 種別	宇津線	矢代線	長野線 (細野)	余野線 (細野)	弓削線	小塩線	黒田線	田貫線	計
京北 第一小	ふるさと バス	6	4	(混乗) 5	(混乗) 11					10
	スクール バス	21	(混乗) 7							44
京北 第二小	ふるさと バス						1			1
	スクール バス							7		7
京北 第三小	ふるさと バス								1	1
周山中	ふるさと バス	10	5	5	3	8	21	5	24	81
計		37	16	10	14	8	22	12	25	144

- ・田貫線と弓削線については、一部路線が重複しているが基本は田貫線に乗車
同様に小塩線と黒田線についても、一部重複しているが基本は小塩線に乗車

(3) 冬季のみ路線バスで通学している児童

京北町時代から、積雪等を考慮し冬季のみバス通学を認めている地域

五本松地区(京北第一小) 7名

下地区(京北第二小) 7名

塩田地区(京北第三小) 3名

井崎地区(京北第三小) 4名

上川地区(京北第三小) 0名

計 20名

* 乗車期間は、11月～3月の5ヶ月

(4) 周山中学校の自転車通学

(五本松, 百ノ角, 下, 鳥居地区)...17名

〈参考〉

学校統合により、遠距離となる地域(京北第二小・京北第三小校区)

○周山中を起点とした距離・時間

校 区	バス停	距離	時間
京北第二小	灰屋口	約15km	28分
	小塩	約11km	22分
京北第三小	上川	約10km	18分
	田貫公民館前	約9km	17分

*バス停は、現在、児童生徒が居住する最遠地
*時間はふるさとバスの時刻表から算出

1. 京北ふるさとバスの現状

(1) 運行路線と運賃

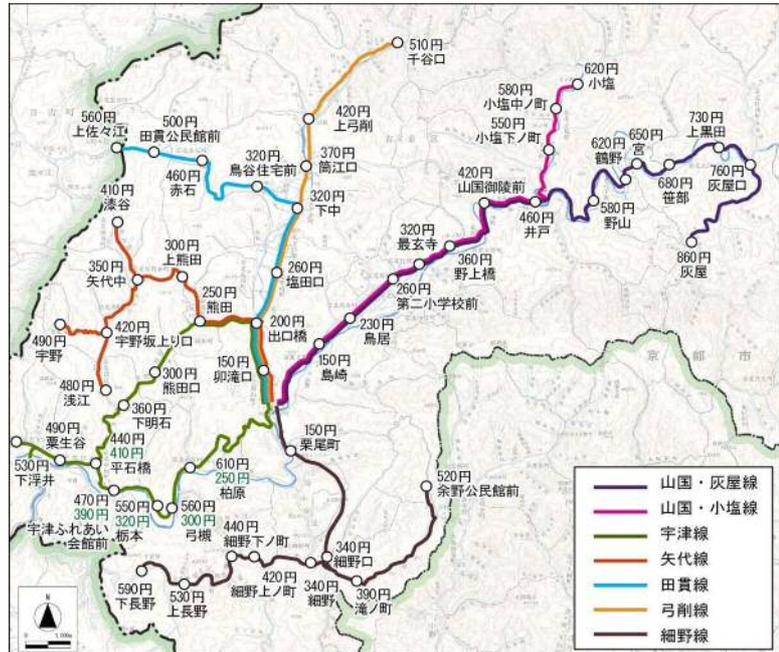
＜ふるさとバスの運行路線と運賃＞

【運行本数(平日)】

- 山国・灰屋線: 5往復
- 山国・小塩線: 5往復
- 宇津線: 2往復 + 3循環
- 矢代線: 5往復
- 田貫線: 8往復
- 弓削線: 5往復
- 細野線: 5往復

【運行時間(周山発)】

- 7時台
- 8時台
- 9時台(田貫線のみ)
- 13時台(田貫線のみ)
- 14時台
- 15時台(田貫線のみ)
- 16時台
- 18時台



1. 京北ふるさとバスの現状

(2) 利用者数と運賃収入(平成27年度)

【利用者数】

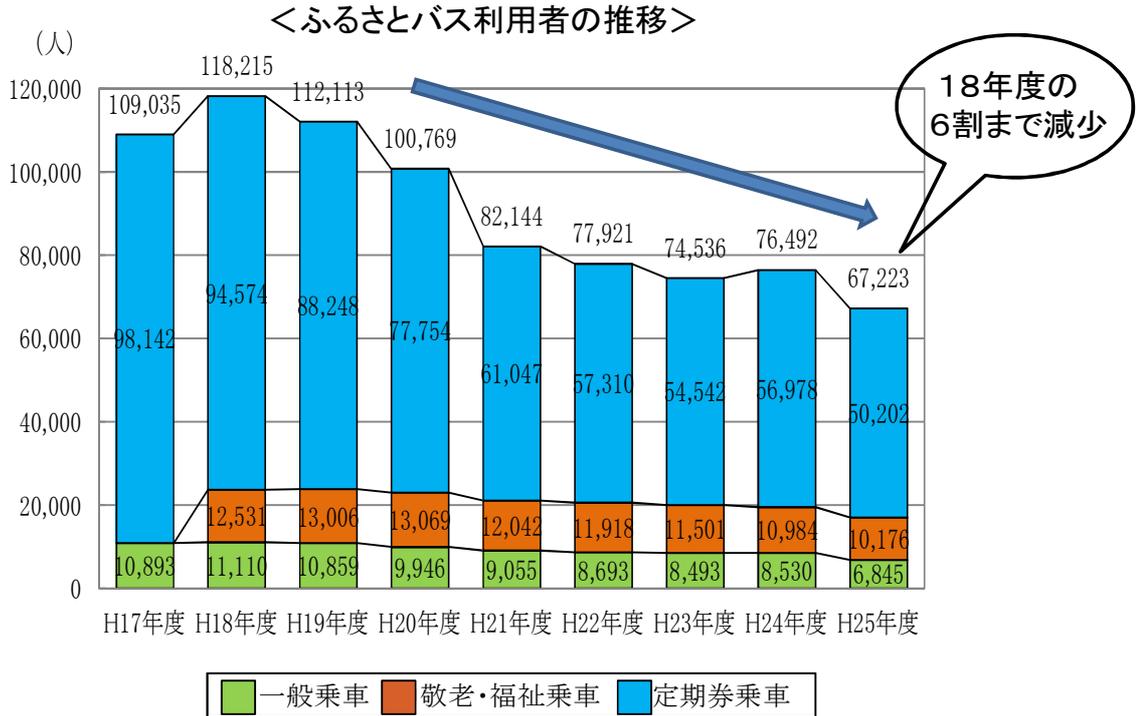
➢ 定期券利用者(小・中学生の通学)	48,548人(73.0%)
➢ 敬老・福祉乗車証利用者	10,509人(15.8%)
➢ 一般乗車	7,429人(11.2%)
合 計	66,486人

【運賃収入】

➢ 定期券収入(小・中学生の通学)	約1,370万円(74.0%)
➢ 敬老・福祉乗車交付金	約 190万円(10.3%)
➢ 現金,回数券収入	約 290万円(15.7%)
合 計	約1,850万円

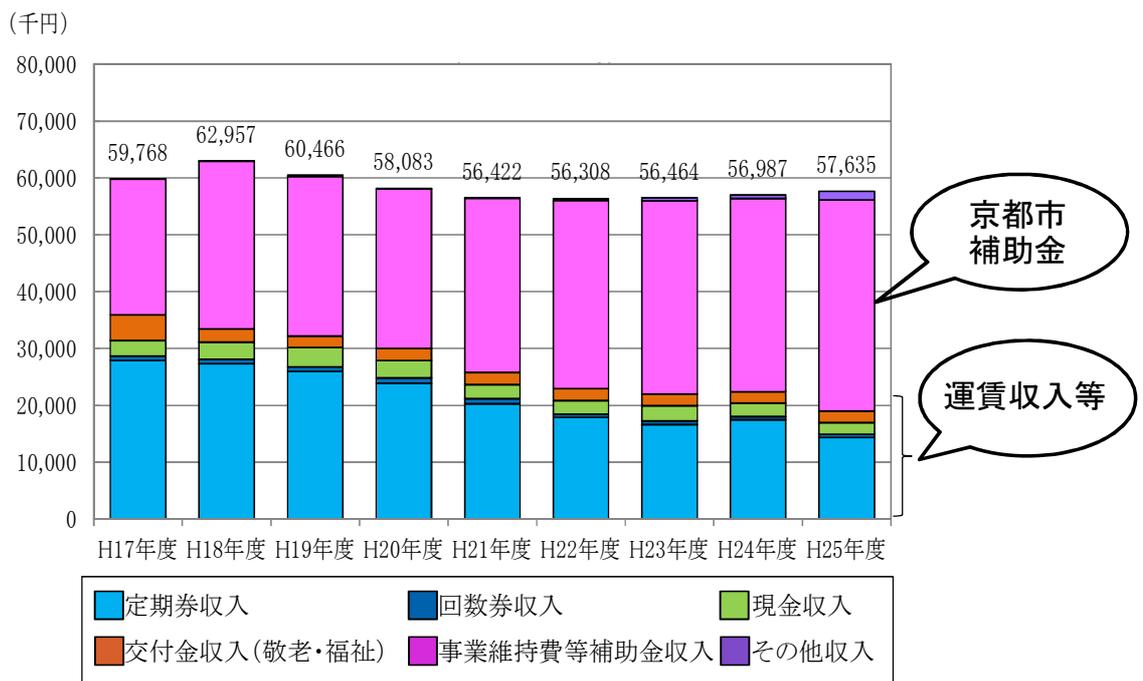
1. 京北ふるさとバスの現状

(3) 利用者数の推移



1. 京北ふるさとバスの現状

(4) 運営状況 (補助金額が全収入の 1/2 (H17) ⇒ 2/3 (H25) に増加)



2. 近年の京北ふるさとバスにおける取組

(1) ふるさとバスの現状を踏まえた対応策

【効率的な運行の社会実験】

- ① ふるさとバスとスクールバスの一体的な運行
宇津線における一体的な運行
- ② 同じ経路を運行している路線の統合
小塩線, 灰屋線の一体的な運行
弓削線の京北病院への立寄りによる, 田貫線の減便

【地域の実情に応じた運行の社会実験】

- ① 北桑田高校生向けの帰宅便の運行
- ② 京北病院玄関口への立寄り
- ③ 昼間お出かけ支援バスの運行

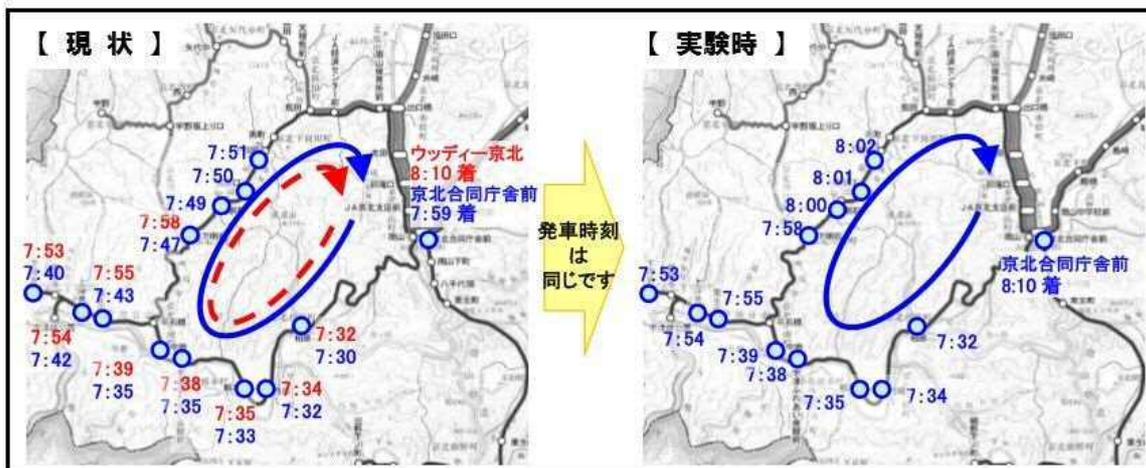
2. 近年の京北ふるさとバスにおける取組

(2) 効率的な運行の社会実験

① ふるさとバスとスクールバスの一体的な運行〔宇津線〕

【実験内容(登校時のみ)】

- 実験期間: 平成28年9月26日～平成29年3月(今年度授業終了日まで)
- 運行ルート: スクールバスの運行に合わせる。
- 運行ダイヤ: スクールバスの運行に近いダイヤに変更。



凡例 赤文字: スクールバス時刻 青文字: ふるさとバス時刻 ○小・中学生の乗降バス停

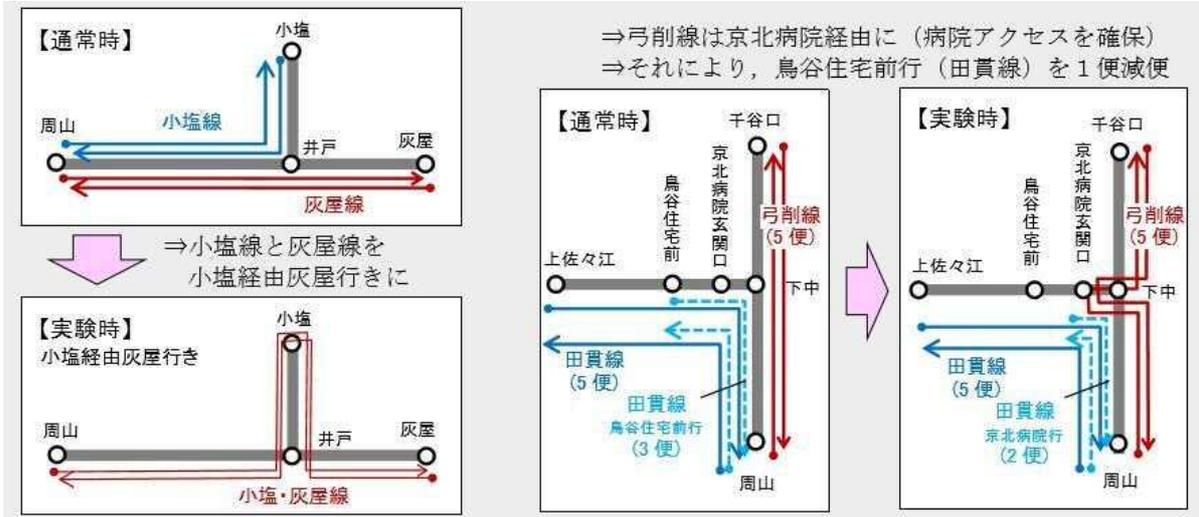
2. 近年の京北ふるさとバスにおける取組

(2) 効率的な運行の社会実験

② 同じ経路を運行している路線の統合(9月1日～3月31日まで)

【小塩線・灰屋線の効率的な運行】
(平日限定)

【田貫線・弓削線の効率的な運行】
(平日限定)



2. 近年の京北ふるさとバスにおける取組

(3) 地域の実情に応じた運行の社会実験

① 北桑田高校生向けの帰宅便の運行

【クラブ活動終了後に利用できるバスの運行】

➢ 帰宅用の夜間便2便を運行(平日限定)

(9月1日～3月31日まで)

【北桑田高校生向け運賃割引】(毎日実施)

➢ 運賃1回上限200円[乗継0円](毎日実施)

(5月16日～3月31日まで)

H27実績: 実験前, 約4人/日

⇒ 実験後, 約18人/日に増加

② 京北病院玄関口への立寄り

➢ 朝7時台の便を除く全ての弓削線が、京北病院玄関口まで運行(平日限定)

(9月1日～3月31日まで)



3. 京北ふるさとバスの運行継続の課題

(1) 少子化に伴う定期券収入の減少

運賃収入の74%を占める定期券収入が、少子化に伴い減少が続
き、京北ふるさとバスの運営が厳しくなっている。

一方、高齢者の増加に伴い、安全な車の運転が難しい方が増加し、
地域の足として京北ふるさとバスを存続することは必要である。

(2) 運転手不足による運行継続の不安

中学生の通学を確保するために、現在、7路線で運行しており、安
全に運行するためには、常時9名の運転手が必要となっている。

バス業界では恒常的に運転手不足に悩まされており、京北ふるさ
とバスも例外ではなく、現在、ギリギリの状態で行っている。

資料4 バス通学において走行する経路(道路)

提 案

冬季の積雪・凍結、バス車両の転回、通学所要時間等を考慮し、1年間を通じて子
どもたちが安全かつ安定して通学できるようにするために、現在ふるさとバスが走行
している道路を走行することを基本とする。

今後、乗車対象地区、乗車場所、運行方法等について協議を進める。



主な意見

運行時刻	部活もある中学生と小学校1年生が同じ時間帯に帰るわけにもいかない。教育課程と連動してバスの在り方を考える必要がある。
運行経路等	従来の徒歩通学に加えてバス乗車が必要になる地区に配慮が必要。バスを当該地区まで入らせる考えはないのか。
	灰屋口の子どもは、小塩を経由した場合、乗車時間が長くなり、低学年には負担である。
	弓削地区のふるさとバスは、上弓削は旧道を走っているが、下弓削は国道（162号）を走っている。住居の大半は旧道沿いにあり、そこから国道までは距離があるため通学用のバスは旧道にも入ってほしい。
バスの運行方法等	山国の殿橋周辺は歩道がなく、歩くには危険なため、安全確保に配慮してほしい。
	通学バスの形態はスクールバスになるのか、ふるさとバスになるのか方針を決めてもらいたい。
	通学バスの形態はスクールバスが良い。 ふるさとバスの利便性を高め、混乗で通学するのが良い。市街地では市バスで通学することは普通のことである。スクールバスだけにすると、将来の京北の公共交通や地域の足がどうなるか。

今後の予定

第2回 29年2月頃 乗車対象地区の検討他